

令和 6 年度 施策評価表

第 5 章 『魅力・元気・文化を誇れるまち』

まちづくりの目標	農業、商業、工業、観光業などの各産業の活性化を図るとともに、これらが自然環境や文化、芸術などと複合的につながり、魅力あふれるまちづくりをめざします。
分野別計画・指針	所沢市文化芸術振興ビジョン、所沢市産業振興ビジョン、所沢市中心市街地活性化基本計画、所沢市農業振興地域整備計画、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、所沢市都市農業振興基本計画

第1節	産業基盤
関係所属	産業振興課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,228人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「産業基盤」 所沢市は企業の立地や新ビジネスの創出が盛んに行われている	303	13.3%	352	15.4%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H26) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成状況	R6年度 目標値
	総生産額	億円	8,113	8,600	8,835 (R3)		8,681

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成状況	R6年度 目標値
5-1-1	新たな産業用地等の創出	企業立地支援奨励金交付件数	件	3	6	6		6
5-1-2	企業誘致の推進	都市型産業等育成補助金交付件数	件	-	10	4	×	10
5-1-3	起業・創業の促進	創業支援事業の支援対象者数	人	166	313	284	×	313
5-1-4	新たなビジネスやイノベーションの創出	農商工連携による新たな商品やサービス等の創出件数	件	1	3	5		3

節の基本方針への取り組み状況

前年度の取り組み状況に対する振り返り
 企業誘致活動については、埼玉県主催の企業立地セミナー(大阪)において三ヶ島工業団地周辺地区に創設される産業団地の情報提供を行った。また、市内不動産賃貸事業者21社への訪問を実施し企業誘致の支援メニューの紹介や情報交換を行ったほか、三ヶ島工業団地周辺地区の企業誘致について(一社)日本立地センターの機関紙「産業立地」に広告掲載して広くPRした。
 農商工連携推進事業では、より魅力的な商品にブラッシュアップするための「商品開発・経営戦略のミーティング」を開催し、5事業者が4名の専門家から意見を聞き、今後の商品のブラッシュアップと事業展開について見識を深めた。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 都市型産業等育成補助金については、市内不動産賃貸事業者21社への訪問を実施して制度の周知活動を行ったが、市外への広がりには課題があり、目標を達成できなかった。
 創業支援事業の支援対象者数については、商工会議所や創業・ベンチャー支援センター埼玉で開催する開業セミナーや相談会に関しては参加者が増加したが、市役所窓口での相談件数が少なく、目標値を達成できなかった。

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 新たな産業用地である三ヶ島工業団地周辺地区については、令和5年10月に都市計画決定がされたことにより事業がより具体化していることから、街づくり計画部と連携しながら事務を進めていく。
 市内への企業立地を促進するため引き続き埼玉県をはじめとした関係機関と連携し周知活動に努めていく。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 企業誘致の推進にあたっては、誘致対象の業種の事業所に対して有効なPR活動を展開していく。
 創業支援事業は、多様な支援メニューにより創業者を多角的に支援するものであるが、創業に関する施策のニーズを的確に捉え、事業の充実を図るとともに、創業機運が高まるよう周知・PRを徹底していく。

SDGsへの貢献			
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	レ 12	つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に
レ 8	働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう
レ 9	産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	産業経済部次長 吉川 泰央

第2節	産業競争力・成長力							
関係所属	産業振興課、農業振興課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,228人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度		
「産業競争力・成長力」 所沢市は商業・工業・農業などの地元産業が活発である			319	14.0%	339	14.9%		
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H26) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	製造品出荷額等		億円	1,628	1,930	1,741 (R2)	×	1,980
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
5-2-1	地域を牽引する事業者 等への支援	地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業 により開発された新製品件数	件	3	5	3	×	5
5-2-2	商工業者等の経営基盤 の強化	(仮称)地域の中核となる事業者等応援事業 による派遣件数	件	-	15	5	×	15
5-2-3	農業の生産基盤・経営 基盤の強化	認定農業者数(総数)	人	161	170	185		170
節の基本方針への取り組み状況								
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>地域資源活用・ものづくり総合支援補助金は、地域産品と複数の地元業者が関わった新製品開発などの事業を交付対象としており、地域経済の活性化や農商工連携の推進に寄与した。 (仮称)地域の中核となる事業者等応援事業については、対面訪問を実施し経営上の課題をヒアリングした。また、所沢市だけでなく国や県の事業者支援施策の紹介を行い、課題解決の一助となるよう努めた。 認定農業者、認定新規就農者といった地域の中心経営体の確保、農地の集積による地域農業の体質強化を目的として、新規就農者が就農する2地区の「人・農地プラン」を改定した。 農業振興地域整備計画の適切な運用により、農業生産の基盤となる優良農地の確保に努めた。 農業を牽引していく認定農業者に対して、データから考える農業経営をテーマとした講演会を開催するとともに、「認定農業者等経営改善推進事業」などにより農業経営改善の支援を行った。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>評価指標となる製造品出荷額等については、令和3年度経済センサス(令和2年中の数値)となるが、令和2年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、全国的に経済が停滞した時期であり、当市も大きな影響を受け、目標値の達成に至らなかった。 地域資源活用・ものづくり総合支援補助金については、採択件数は14件と増えたが、申請が販路開拓事業に集中し、新製品開発事業の申請が少なかったため、事業目標とした目標値は達成できなかった。 (仮称)地域の中核となる事業者等応援事業は、企業訪問と既訪問企業の支援・フォローアップをバランス良く行う事業へとシフトするため、所沢市産業振興ビジョン後期アクションプランの中で目標値の見直しを行い、新規訪問の目標値を5件/年と変更した。また、新たな目標値として、既訪問企業の支援件数を5件/年としたが、こちらは17件と目標を達成している。</p>								
今後の方向性								
<p>「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>地域を牽引する事業者による新産業・新分野の展開につながる取組を積極的に支援していくとともに、優れた独自技術やサービスを有する事業者に対し、事業の展開や拡大に向け、積極的に支援をしていく。 農業を牽引していく認定農業者に対しては、農業経営改善に向けた支援を行い、新たな担い手である認定新規就農者に対しては、経営初期の安定化のための支援を行っていく。 地域の農業情勢を見据え、従来の「人・農地プラン」を基に、法定計画である「地域計画」を策定し、適切な運用を行う。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>評価指標の未達成原因が災害(感染症の流行)に起因するものであるため、「事業継続力強化計画」や「BCP」の策定について周知し、災害時でも人的被害・経済被害を軽減し、安心・安全に事業を継続していけるよう事業者に促していく。 地域資源活用・ものづくり総合支援補助金は、小規模事業者の生産性向上や地域産業の活性化を図る上で効果的な事業であるため、より一層の補助事業の周知や事業の充実に向け取り組んでいく。 (仮称)地域の中核となる事業者等応援事業は、地域の核となる事業者に対する支援機会を提供するものであり、事業者へのヒアリングをもとに事業の充実を図っていく。</p>								

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
レ	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
	3 すべての人に健康と福祉を	レ	12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に	レ	15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
レ	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	産業経済部次長 吉川 泰央

第3節	観光・にぎわい							
関係所属	商業観光課、農業振興課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,228人		満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度			
「観光・にぎわい」 所沢市らしい誇れる観光スポットや賑わいのエリアがある		636	27.9%	538	23.6%			
評価指標の 達成状況	指標名	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値	
	観光入込客数	万人	552	750	824		780	
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
5-3-1	にぎわい拠点の創出・ 活性化	新たな拠点施設への来場者数	万人	-	140	17	×	140
5-3-2	にぎわい拠点のネット ワーク形成	他自治体と連携イベント等へ参加した回数	回	20	25	14	×	26
5-3-3	観光を軸としたブランド 化の推進	体験農場利用者ステップアップ事業への参加 者数	人	238	300	104	×	300
5-3-4	観光客誘致の強化	Facebook等のSNSの「いいね」数	人	5,869	11,300	18,438		12,200
節の基本方針への取り組み状況								
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、令和4年度に比べ、イベント等への参加がしやすくなった。 体験農場を貸出すことで、土に触れ合いながら収穫の喜びを感じてもらうことにより、農業への理解を深め「農のあるまちづくり」を推進した。また、2年毎の入替による新たな利用者の募集及び農場整備を行うとともに新たな農場の開設準備を行った。 生産者の農業経営の改善を支援しながら、市内外のイベント等へ参加することにより、所沢産農産物の消費拡大を推進するとともに、ブランド化の推進を図った。 令和5年7月に、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域として「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が、世界農業遺産に認定された。 X(旧Twitter)を中心に積極的なSNSでの情報発信を行った。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析 新たな拠点施設への来場者数は、EJアニメホテルの閉館など、サクラタウンの集客事業の見直しによる影響等により、目標未達成の昨年に比べさらに減少した。 事業効果の見込めるイベントの数が少なかったため、5-3-2「にぎわい拠点のネットワーク形成」が未達成となっている。 体験農場利用者ステップアップ事業の目標値は、講習会、区画圃場コンテスト、農家での農作業体験の3事業の実施による参加者の合計数を指標としていたが、類似事業があることや例年参加者が少なかったことなどの理由により実施方法を見直し、講習会のみの実施としたため目標未達成となった。開催した講習会については、農場の限られたオープンスペースに応じた人数で、講師の作業手順を見ながら随時質問できるよう開催したこともあり、全参加者が講師の所作をしっかりと学ぶことができた。</p>								
今後の方向性								
<p>「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容 参画している広域団体との更なる連携により、5-3-2「にぎわい拠点のネットワーク形成」をより進めていく。 狭山茶の普及促進を目的として、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の出展準備を進める。 世界農業遺産武蔵野の落ち葉堆肥農法推進協議会の会員として、また、市として、農法の継続を推進し、地域産業や観光等の振興を図っていく。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容 YOT-TOKOの来場者が増加するように館内のレイアウト変更やカフェメニューの見直し等を実施するとともに、ツアーの造成等観光客が市内を回遊するような取組も実施する。 5-3-2「にぎわい拠点のネットワーク形成」達成のため、近隣自治体との更なる連携により、イベント等への参加を増やしていく。 体験農場においては利用者のニーズを把握するとともに、新たに有機農業に関する講演会等を開催するなど、体験農場利用者のスキルアップを目指し、事業を展開していく。</p>								

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	レ	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
レ 8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
レ 9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R6.7.31	記入者職氏名	産業経済部次長 吉川 泰央
-----	---------	--------	---------------

第4節	産業人材・雇用								
関係所属	産業振興課								
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,228人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度			
「産業人材・雇用」 所沢市の農業の担い手育成や就労支援は充実している			150	6.6%	305	13.4%			
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H26) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値	
	市内事業所従業者数		人	114,497	115,700	116,328 (R3)		115,900	
事業目標の達成状況									
基本方針		事業目標		単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
5-4-1	将来の産業を担う人材 の確保と育成	市ホームページ等で紹介した事業者数(累 計)		者	-	50	18	×	50
5-4-2	雇用の確保や労働環境 の改善	就職応援フェア参加者数		人	105	80	115		80
節の基本方針への取り組み状況									
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り 「セカンドキャリアセンター事業」や「就労チャレンジ支援事業」など、若者・女性・シニア等の就労支援事業に取り組んだ。 事業者からの人材確保支援要望の高まりを受け、市内製造事業者の魅力やPRするコンテンツ、通称「とこジョブ」の公開や冊子の作成等を実施した。また、昨年度に引き続き、とこジョブ掲載事業者に協力をお願いし、「OPEN FACTORY TOKOROZAWA」を開催し、工場見学、社長・若手社員との懇談やものづくり体験をするなど、製造業をより身近に感じてもらい、将来の人材確保に結びつくよう努めた。新たな取り組みとして、狭山市・入間市・三芳町・ハローワーク所沢・埼玉県と合同で地域合同就職相談会を初めて開催し、中小企業の人材確保に取り組んだ。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析 人材確保策として行っている市内事業者の紹介については、掲載事業者の募集を市HPや広報で周知している他、DMの発送や、企業訪問時に制度の活用を案内するなどの活動を行っているが、申請数が伸び悩んだ。掲載を希望する事業者からは、掲載要件が厳しいとの意見もあった。</p>									
今後の方向性									
<p>「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容 国・県と連携しながら、多種多様な世代のニーズに応じた就労支援を実施していく。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容 就職応援フェアについては、ハローワーク所沢と連携し、参加者ニーズを把握しながら引き続き開催していく。 人材確保策として行っている市内事業者の紹介については、掲載希望事業者から、掲載要件が厳しいとの意見もあることから、掲載要件の見直し等を検討していく。</p>									
SDGsへの貢献									
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう						
	2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを						
	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任						
レ	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を						
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう						
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう						
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に						
レ	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう						
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう								
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	産業経済部次長 吉川 泰央						

第5節	国際化・多文化共生							
関係所属	企画総務課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,228人		満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度			
「国際化・多文化共生」 所沢市は外国人市民にも暮らしやすいまちだ		273	12.0%	222	9.7%			
評価指標の 達成状況	指標名	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値	
	国際化・多文化共生に関する施策の満足度	%	-	39	12.0	×	40	
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
5-5-1	国際交流活動の推進	姉妹都市交流事業に参加した市民の人数	人	150	175	141	×	180
5-5-2	外国人市民が暮らしやすい環境づくり	多言語化した行政資料の種類(「やさしい日本語」含む)	数	5	35	78		40
5-5-3	多文化共生の意識を育む環境づくり	国際交流フォーラムの参加者数	人	550	600	645		610
節の基本方針への取り組み状況								
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り 韓国・安養市との姉妹都市締結25周年及び安養市市昇格50周年を記念する代表訪問団を安養市に派遣し、今後の交流継続を確認した。イタリア都市文化交流推進事業の一環として、職員向けにワイン販売を行った。 多文化共生の意識を育む環境づくりの一環として、外国人市民と日本人市民の交流・情報交換の場となる国際交流フォーラムを開催した。職員向けに「やさしい日本語」研修を開催した。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析 目標値については、評価指標を定めた際に実績値がない中で決定したものであり、現実的な値になっていなかった面がある。今後は、現実的な目標値を定めるとともに、引き続き、満足度が上がるような施策の推進、情報発信や周知啓発等を進めていく必要があると考えている。 姉妹都市交流は、航空運賃の値上がり等の影響から、市民レベルでの交流事業が実施できなかった。</p>								
今後の方向性								
<p>「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容 国際交流活動では、姉妹都市をはじめ、令和4年度に覚書を取り交わしたイタリア共和国ティエネ市との交流を引き続き推進していく。外国人市民が暮らしやすい環境づくりの一環として、行政資料の多言語化(「やさしい日本語」を含む)や市ホームページ等での情報発信の充実を図る。 多文化共生の意識を育む環境づくりの一環として、国際交流フォーラムの開催や庁内職員向けの研修を引き続き実施する。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容 外国人市民向けほっとメールや市ホームページ等の充実を図るとともに、国際化・多文化共生の周知や意識啓発に努めていく。 姉妹都市交流は、航空運賃等の状況を注視するとともに、オンラインによる交流の可能性も検討するなどして市民レベルでの交流事業の実施等、目標達成に向け事業を進めていく。</p>								
SDGsへの貢献								
1	貧困をなくそう	レ	10	人や国の不平等をなくそう				
2	飢餓をゼロに	レ	11	住み続けられるまちづくりを				
レ	3	すべての人に健康と福祉を		12	つくる責任	つかう責任		
4	質の高い教育をみんなに		13	気候変動に具体的な対策を				
5	ジェンダー平等を実現しよう		14	海の豊かさを守ろう				
6	安全な水とトイレを世界中に		15	陸の豊かさを守ろう				
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16	平和と公平をすべての人に				
8	働きがいも経済成長も		17	パートナーシップで目標を達成しよう				
9	産業と技術革新の基盤を作ろう							
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	経営企画部次長 大出 久美					

第6節	文化芸術・伝統文化							
関係所属	文化芸術振興課、文化財保護課							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和5年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,228人			満足、まあまあ満足 と回答した人数	満足度	力を入れてほしい と回答した人数	要望度		
「文化芸術・伝統文化」 日常生活の中での芸術・文化に触れる機会に満足している			373	16.3%	293	12.8%		
評価指標の 達成状況	指標名		単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
	文化芸術・伝統文化に関する施策の満足度		%	-	44	16.3	×	45
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29) 現状値	R5年度 目標値	R5年度 実績	達成 状況	R6年度 目標値
5-6-1	個性あふれる文化の創造	所沢市文化祭の延入場者数及び事業参加者数	人	17,927	20,500	11,089	×	21,000
5-6-2	文化財の保護・活用	文化財保護にかかる事業の参加者数	人	9,450	11,600	7,212	×	12,000
5-6-3	ふるさと研究の推進	ふるさと研究活動にかかる延利用者数	人	5,882	6,150	5,344	×	6,200
5-6-3	ふるさと研究の推進	郷土資料利用件数	件	389	440	1,010		450
節の基本方針への取り組み状況								
<p>前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>「音楽のあるまちづくり」事業では、新所沢パルコ等でコンサートを開催したほか、前年度より引き続きグランエミオ所沢でのストリートピアノを設置し、コロナ禍等で長らく中止となっていた「空飛ぶ音楽祭」を6年ぶりに開催した。</p> <p>様々な芸術・文化活動を行う16の連盟で組織された所沢市文化団体連合会の事業である「所沢市文化祭」は、コロナ禍が明けて大半の催しが実施され、8月には「総合フェスティバル」を開催した。</p> <p>三ヶ島地区の文化芸術による愛着や誇りの醸成、地域活性化を図ることを目的として、「文化芸術等における連携・協力に関する協定」のパートナーの武蔵野美術大学、県立芸術総合高校の協力を得ながら、4基の「アートベンチ」を制作及び設置した。</p> <p>西武鉄道株式会社及び県立芸術総合高校の協力で、所沢駅を会場とした「所沢駅モノクロアート展」を開催した。</p> <p>指定管理者の運営による所沢市民文化センターは、「ミューズ30周年感謝祭」を開催するなど、令和2年度のリニューアルオープン後、初めてコロナによる制限のない運営となり、多くの公演や貸館利用があった。</p> <p>国登録有形文化財「秋田家住宅」などの公開により、市民が文化財を見る機会を設けるとともに、「所沢市伝統芸能発表会」の開催により、民俗芸能保存団体の活動支援を行うとともに市民が無形民俗文化財に親しむ機会とした。さらに、広報紙発行を通じて文化財調査成果の情報発信を進めた。</p> <p>企画展「関東大震災百年～その時、所沢は～」及び「所沢の養蚕～蚕・繭・糸・絹が語る昔と今～」を開催することにより、市民が所蔵する資料や市への寄贈資料を公開し、市民が守り伝えてきた所沢の歴史・文化を伝え・学ぶ機会とした。</p> <p>コロナ禍で大規模開催を控えていた「ところざわ星空フェスティバル」を市内企業など協力のもと5年ぶりに開催することにより、子どもたちは夏休みに「ふるさと所沢」を学び親しむ機会とした。</p>								
<p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>評価指標については、策定時に実績がなかったことから、適切な目標値の設定がされなかった。また、文化芸術・伝統文化に対する捉え方が個人によって異なるため、施策により市民全体の満足度を上げることが困難である。</p> <p>「所沢市文化祭」は20事業が予定通り実施されたが、コロナ禍で一度縮小した事業規模や来場者減少の影響は大きく、延入場者数及び事業参加者数はコロナ禍以前に比して大きく減少したままである。</p> <p>参加人数の目標値は達成していないものの、参加者満足度(アンケート等)は高い数値を示しており、一定の評価を得ている。</p> <p>事業会場のキャパシティもあり、人数を指標とした現状の目標値達成は困難と思われる。しかしながら、参加者満足度(アンケート等)は高い数値を示しており、一定の評価を得ている。また、令和5年度実績値は前年度実績値より上昇しており、web配信などコロナ禍において取り組み始めた事業手法の成果も見えてきている。</p>								

今後の方向性			
<p>「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容 「音楽のあるまちづくり」の推進をはじめ、文化の薫り高い施策を進めていく。 所沢市民文化センターについては、市の文化の発信拠点として、魅力あるコンテンツを提供していけるよう指定管理者と協力していくとともに、地域密着型の文化振興についても推進していく。また、施設の大規模改修時に未着手だった部分について、計画的に修繕を進めていく。 文化財の所在把握や調査に努め、その価値を明らかにするとともに、保護と活用の両輪により後世へ護り伝えていく。 「ふるさと所沢」に関する資料を収集・整理・調査し、その成果を展示・講座・体験学習会等を通じて市民に伝えるとともに、市が所蔵する資料を良好な環境で保存するため郷土資料等収蔵施設の検討を進める。 ○所沢の歴史文化を後世に継承していくため「文化財保存活用地域計画」を作成し、総合的・計画的な事業展開を進める。</p> <p>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容 コロナ禍の反動で事業の需要が復活する機運を捉え、市民が安心して文化芸術に触れる機会を提供するとともに、文化芸術に気軽に親しむことで関心を持つ人たちの裾野を広げていけるよう内容を充実させていく。 より多くの市民が「ふるさと所沢」の文化財や歴史・自然等に愛着を抱くことができるよう、情報発信や講座などの充実にも努めるとともに、効果的な事業手法の研究を進める。</p>			
SDGsへの貢献			
1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう	
2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを	
3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任	
4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を	
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう	
6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう	
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に	
8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう	
9 産業と技術革新の基盤を作ろう			
評価日	R6.7.31	記入者職氏名	市民部次長 糟谷 苗美 教育総務部次長 池田 淳